

事故「なし」の願いを「梨」に込めて

秋の交通安全県民運動(9月21日~30日)の一環で、「事故ナシ」を呼びかける運動が9月22日に行われました。この日は交通安全推進協議会のメンバーや田川警察署の署員などが、「安全運転を心掛けてください」と、町特産品の赤池梨と啓発チラシを200セット配布。梨を手渡された運転手たちは驚きながらも、安全運転へのシャレの効いた呼びかけに笑顔で応じていました。



↑セブンイレブン(赤池)で運転手に梨を手渡し安全運転を呼びかける嶋野町長。

↓左から順に木下翔一くん、木下温斗くん、達城伶奈さん、坂元美友さん(市場小)



夢あふれる飛行機の絵が入賞に輝く

夏休み期間中、「ぼくたち・わたしたちの大好きなJALの飛行機」をテーマにした絵の募集が行われ、市場小の4人の作品が262点の応募作品の中から入賞しました。9月28日の北九州空港まつりで表彰式が行われ、木下翔一くんと達城伶奈さんが「家族の絆で賞」を、坂元美友さんが「楽しい色で賞」を、木下温斗くんが「飛んでいるで賞」をそれぞれ受賞しました。

↓伊方古墳の神秘的な雰囲気と歴史を感じながら、熱心に作業を進める参加者。



親子勾玉教室 太古のロマンに思いを馳せて

県指定文化財「伊方古墳」の一般公開にあわせて、10月19日に、親子勾玉教室が児童センター主催で行われました。参加した17組30人の親子は、3cm四方の石をヤスリなどで細かく削り、通常の形のほか、ダイヤ形などの個性的な勾玉を成形。完成した勾玉のペンダントを首に下げ、伊方古墳の内部を見学した参加者たちは、古代の文化と歴史を肌で感じていました。

ブックカフェが初開催 コーヒーと本の魅力感じたひととき

好きな本を持ち寄って、その本を紹介し合う「ブックカフェ」が、スタートアップ講座から活動を広げた「ふくち山カフェクラブ」と「福智町としょかん友の会」の共催で10月21日に中央公民館で開催されました。31人の参加者が6班に分かれて絵本や小説などお気に入りの本を紹介。山カフェ自慢のコーヒーや山水を飲みながら、リラックスした雰囲気の中で交流を深めていました。



↑こだわりのコーヒーを味わいながら、お気に入りの本について語る参加者たち。

↓「ミニ九州鉄道記念館」の精巧な鉄道模型には、子どもから大人まで多くの来場者が注目していました。



地域に発信、25周年の魅力

10月4日と5日の2日間、平成筑豊鉄道開業25周年「へいちくフェスタ2014」が、金田ドームでの記念式典の後に開催されました。メイン会場の金田駅では、手作り雑貨やお菓子などを販売する「駅ナカマルシェ」や、ステージイベントなどが盛況。今回初の西鉄夜行高速バスの展示では、車内の見学にあわせて制服を着用しての記念撮影をする親子連れなどが多く見られました。例年人気のミニちくまる号や、軌道保線車体験も行われ、2日間で過去最高の約9千人の来場者が“へいちくならではの”を満喫していました。

新ソバの花フェスタ2014 ソバで実りの秋を満喫

農業プロジェクト主催の「ソバの花フェスタ」が10月19日に萩ヶ原地区(伊方)で行われました。会場には「ソバまんじゅう」などを目当てに約500人の来場者が詰めかけ、なかでも「手打ちソバ」は最大約20分待ちの行列ができるほどの大盛況。ステージでは歌謡ショーや琉球三味線、太鼓演奏などが披露され、今年で14回目を迎えるフェスタに花を添えていました。



↑「手打ちソバ」を打つ農業プロジェクトのメンバーと、完成を待ち望む来場者。

↓澄み切った青空の下、鮮やかなピンクと白の花が満開のコスモスフェスタ会場。



台風乗り越え、コスモス満開

10月19日、弁城営農組合農作業受託部会主催の「コスモスフェスタ2014」が開かれました。およそ1ヶ月の畑で満開のコスモスのなかには、10月13日に接近した台風19号の影響で倒れたものもありましたが、フェスタ当日までに持ち直したとのこと。台風に負けず咲いたコスモスを眺めながら、町内外から訪れた約500人の来場者は枝豆取りやさつまいも掘りなどを楽しんでいました。